



熊谷市 記者クラブ取材情報

平成31年2月25日発表
担当課:社会教育課
市史編さん室

事業の名称等

鎌倉時代の快慶様式 代・東善寺 木造阿弥陀如来立像について

1. 日時

2. 場所

3. 事業概要

熊谷市史編さんのための調査において、鎌倉時代の仏師・快慶が製作した可能性が極めて高い木造阿弥陀如来立像が、代・東善寺で確認された。
(発見までの経緯)熊谷市史編さんでは、平成24年度から『調査報告書 仏像・仏画』(全3冊)を刊行するため、仏像・仏画専門部会(林宏一部会長)により、市内寺院等に所在するすべての仏像の調査を行っている。この中で、代・東善寺を調査した際、鎌倉時代の仏師・快慶の作にある特徴をもった像が確認された。像高は69cm、鼻先、手先などの一部を除き、ほぼ完形である。像の状態を考慮し、東善寺とも協議をした結果、市立熊谷図書館の特別収蔵庫で預かることとなった。
(東京国立博物館での調査)平成30年7月26日、東京国立博物館において、快慶に造詣の深い専門家による調査及びX線コンピュータ断層写真撮影(CT)を行った。
調査では、快慶研究の第一人者である山本勉氏(清泉女子大学教授)から、「この像には、快慶の作品にある特徴が複数見られる」との所見があった。
X線CTからは、本像が、製作初期の姿をとどめていることや、全身をほぼ一つの材から彫刻するという予想外の手法が取られていることが確認された。また、像内には、折りたたまれた古文書らしきもの(36×6.6×4cm)が入っていることが分かった。
これらの調査、撮影から、快慶もしくは快慶工房の製作にかかる作品で、1200年代初期の熊谷直実が活躍した頃の像であることが明らかになった。

4. 特徴やPRポイント

関東では、快慶作と判断されているのは2件(栃木県足利市、益子町)のみで、この像は、新たにそれに加えられる貴重な存在である。
また、今後の調査により仏像胎内の古文書の内容が明らかになれば、快慶、さらにはこの時代の歴史を考える上で、極めて重要な資料となる可能性が高い。

5. その他

本像の考察については、本年度刊行の『熊谷市史研究 第11号』において発表する。(速報としては、『熊谷市史 上巻 原始・古代・中世』において発表済み、大判のカラー写真を掲載している。)
また、平成31年3月16日～5月6日に開催予定の埼玉県立歴史と民俗の博物館の特別展「東国の地獄極楽」において、展示が予定されている。

資料の有無(有 ・ 無)

担当者 社会教育課市史編さん室 蛭間

連絡先 048-567-0355

熊谷市史研究

第 11 号

巻頭写真 東善寺阿弥陀如来立像、慶長15年大河内久綱年貢割付状、
鷹図(四方寺吉田家所蔵)、広島県三原市斎藤五・六関係史跡(宗光寺、万性寺)

快慶様の鎌倉仏 東善寺木造阿弥陀如来立像について

.....林 宏一・原口 雅樹・西口 由子 11

熊谷市内出土の墨書土器について(上)..... 亀谷 弘明 22

好古家根岸武香の文化活動とその交友

—小杉楢軒手記『千とせのあき』から— 新井 端 39

近世初期幕領における武州妻沼陣屋と大河内久綱

—年貢割付状をもとに支配領域を考える— 栗原 健一 63

化政期の熊谷俳人 梅本貝石 内野 勝裕 87

【調査報告】四方寺吉田 康久家文書について 立正大学古文書研究会 89

【報告】『熊谷市史 通史編上巻』刊行記念講演会 市史編さん室 98

【調査報告】広島県三原市 伝斎藤五・六の墓について 市史編さん室 105

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

I 熊谷市史編さん委員会報告 110

II 熊谷市史編集会議報告 111

III 専門部会活動報告 113

市史編さん室 事務局活動報告 123

コラム 絵葉書で見る熊谷の歴史⑧

埼玉県立熊谷農学校創立四十周年

埼玉県立青年学校教員養成所創立二十周年の記念絵葉書 宮瀧 交二 134

熊谷市史刊行物のご案内 136

編集後記 139

平成31年(2019)3月

熊谷市教育委員会



東善寺 阿弥陀如来立像